

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

世界に誇る博物館プラネタリウムを活用した地域活性化推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

神奈川県相模原市

### 3 地域再生計画の区域

神奈川県相模原市の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

##### 【市の社会的・経済的課題】

本市はこれまで首都圏のベッドタウンとして発展し、令和5（2023）年における推計人口は約73万人となっているが、令和元（2019）年をピークに減少に転じており、今後、少子高齢化が急激に進行すると推計されている。持続可能なまちづくりのため、これまで以上に地域資源の活用と交流人口の拡大、活力ある地域社会の実現が求められている。

令和4（2022）年度の本市の入込観光客数は、6,030千人で、コロナ禍以前に比べると低い水準に留まっている。また、本市が実施した令和4（2022）年度のイメージ調査では、本市を認知している市外の人のうち、好意的に認知している人の割合は27.5%に止まっており、観光意欲度と魅力度の不足が明らかとなっている。交流人口の拡大を実現するためには、本市の特色と強みである宇宙関連資源を活用した取組を強化し、市の魅力度向上に結び付けていくことが必要となっている。

##### 【宇宙関連資源を活用した取組が交流人口へ与える影響】

令和4（2022）年度の博物館やJAXA相模原キャンパスで実施された宇宙関連イベントには約8万4,500人が参加しており、相模原市全体の主要観光行事観光客数28万6,000人（「神奈川県入込観光客調査報告書」より）の約30%に匹敵し、市の交流人口の変動に大きな影響を与えている。

その一方で、令和4（2022）年に本市が実施した、相模原市を除く神奈川県、東京都に在住者を対象にした「相模原市イメージ調査」の結果によると、「相模原市について知っていること」は、「自然が多い」（32.9%）、「リニア中央新幹線の新駅が設置される」（18.8%）に次いで、「JAXA相模原キャンパスがある」（16.5%）となっており、宇宙のまち相模原のイメージが深く浸透していないことが明らかとなっている。

今後の交流人口拡大には、本市の個性である宇宙に関わる取組を拡充していくことが最も効果的であり、特にその中核をなすJAXAとの連携強化や博物館プラネタリウムの魅力向上により、「相模原と言えば宇宙」というイメージを広く定着させていくことが最重要の課題となっている。

##### 【プラネタリウムの国内及び本市における需要と本市プラネタリウムの認知度】

全国の年間プラネタリウム総観覧者数は、平成11（2000）年に500万人であったが、令和元（2019）年度には約830万人にまで増加し、プラネタリウム需要の高まりをうかがわせている。一方、本市のプラネタリウムでは、平成11（2000）年度の観覧者数53,660人に対し、令和元年度は55,195人となっており、コンスタントな集客には成功しているものの、全国的な需要の伸びを取り込めていない。

本市では、「宇宙を身近に感じられるまちさがみはら」をテーマにシティプロモーションに取り組み、その中核施設として博物館プラネタリウムを位置づけてきた。取組の結果を示すものとして、「相模原市教育振興計画に関するアンケート調査」による市内でプラネタリウムのあることを知っている人の割合を見ると、小中学生の子どもがいる人では87.6%で、プラネタリウムの存在は市民に広く浸透しており、特に子育て世代の関心が高いことがうかがえる。また、博物館に来館したことがある人のうち、今後も来館したいと思う人の割合は79.6%で、その理由として、「プラネタリウムを見たい」と答えた人の割合が73.4%となっている。このことは、市内在住者の認知度は高いものの、それが観覧者の増加に効果的に結び付いていない状況を示している。

#### 【プラネタリウム観覧者の動向と課題】

令和元（2019）年度にプラネタリウムで実施したアンケート結果によると、観覧者の居住地は市内が46%、市外が49%とほぼ同程度であるが、博物館で実施している企画展観覧者のアンケートに比べると、市外からの来館者の割合が7ポイント高く、交流人口拡大のコンテンツとしては有用である。

しかし、1座席あたりのプラネタリウム観覧者数は、19政令指定都市中14位となっており、全国的に見ると、その有用性を活かしきれていない。

本市のプラネタリウム観覧者における年齢層では12歳以下が最も多く39%を占め、40歳代18%、30歳代11%と続いている。また、同伴者は子を含む家族が52%と最も多く、観覧者で最も多いのは小学生以下の子どもと30～40代の親で構成される家族であることが推定される。

一方、13～19歳の割合は6%と最も少なく、20歳代も7%と低い。博物館近隣には、3つの大学キャンパスがあり、「相模原市教育振興計画に関するアンケート調査結果」によると、市内の72.4%の学生がプラネタリウムの存在を知っているにもかかわらず、学生を中心とした若者を取り込めていない。また、50歳代以上も10%以下に留まっているが、プラネタリウムの多目的利用で実施したコンサートでは参加者の60%以上を占め高い傾向がうかがえる。

観覧回数で見ると、1回が41%、2～4回が32%、5回以上が25%となっており、リピーター率は57%となっている。番組内容で見ると全天周映画のリピーター率が高く、アンケート結果によると大自然の壮大な映像に感動したなど、映像体験そのものがリピートの動機となっていることがうかがえる。また、生解説による星空解説番組については、来る度に解説の内容が変わって面白いなど、内容の新鮮さや解説員への好印象などがリピートの動機となっている。内容の評価については、全ての観覧者で「とてもよい」と「よい」を合わせると、94%で満足度は非常に高くなっているが、周囲の子どもの声で楽しめなかった、階段が暗いなどの意見もあり、特に観覧環境への不満が機会損失につながっていることがうかがえる。

#### 【博物館プラネタリウムのハード面の課題】

博物館プラネタリウムは平成7（1995）年に整備されたもので、全国の同規模館の中では最も古い投影機が使われている。映像のリアリティや没入感が数世代前のままとされており、後発の投影機を導入している他館に比べ体験価値が相対的に低下している。また、整備当時とは、コンサートやパブリックビューイングなど多目的利用が想定されていなかったため、音響や照明など機能面において様々な制約があり、多目的利用において効果的な活用が図られていない。

体験型観光への関心が高まる中で、プラネタリウムの体験価値を向上させ、賑わいのあるまちづくりに寄与する誘客力のある施設とするためには、自由度が高く、美しい映像表現が可能となっている最新式プラネタリウム投影機等の導入とそれらを効果的に活かすための施設改修を行うとともに、多目的利用に適した改修を行う必要がある。

#### 【課題の解決に向けた取組の方向性】

市外から多くの人を呼び込み交流人口を拡大するためには、観光意欲度や市の魅力度の向上が必要であり、その中で、プラネタリウムは市外から人を呼び込むコンテンツとして有用性が高いものの、現状では、番組内容などにおいて、他館との差別化がそれほど顕著ではなく、JAXA所在地に相応しい相模原らしさをもった魅力的なコンテンツが不足しているため、その有用性が活かしきれず、観光意欲度や市の魅力向上に十分な役割を果たせていない。

課題の解決には、本市の特色である宇宙関連資源を活用した魅力度向上が効果的であり、その中核にあるプラネタリウムを全面リニューアルし、JAXAとの連携による宇宙への好奇心を刺激する番組提供など独自性のあるコンテンツの提供を行う必要がある。また、ターゲットを絞った取組として、コア層である子育て世代の利便性向上や観覧環境の改善、大学などとの連携を通じた若い世代への情報発信、高齢世代の需要にマッチしたコンサートイベント等の充実なども必要である。加えて、地域コミュニティが交流する拠点として多目的に活用し、地域住民のプラネタリウムへの愛着を育てていく。これらの取組によって、プラネタリウムの利用者が増加するとともに、地域活動の活性化が図られ、その結果、宇宙のまち相模原の魅力が市内内外の人々に伝わり、市全体の交流人口の拡大に結びつけることができる。さらに、交流人口の拡大によってまちの賑わいを創出し、市の人口増加に結び付けていくことができる。

## 4-2 地方創生として目指す将来像

### 【概要】

#### 【市と宇宙との関わり】

本市と宇宙との関わりは、昭和56（1981）年に発足した文部省宇宙科学研究所の米軍キャンプ淵野辺跡地への移転計画に端を発し、当時受け入れに積極的であった市は、昭和62（1987）年に、宇宙科学研究所に関係のある2市3町（現在は5市2町）で「銀河連邦」を結成し移転に向けた機運を盛り上げた。正式移転は平成元（1989）年に完了し、宇宙科学を担う最先端の研究が本市を拠点に行われるようになったが、市内外の認知度は十分ではなかった。そこで、市は平成7年（1995）にプラネタリウムを併設した相模原市立博物館を研究所の隣接地に建設し、誰もが宇宙科学に親しむことのできる施設としてさまざまな普及活動に取り組んだ。その後、小惑星探査機「はやぶさ」をはじめとする宇宙科学研究所（平成15（2003）年JAXAに機関統合）の研究活動がマスコミにも取り上げられるようになり、最寄のJR淵野辺駅周辺の商店会が宇宙をテーマにした町おこしに取り組むなどした結果、現在においては市民を中心として「宇宙のまち相模原」という認識が広まっている。

#### 【宇宙をテーマにしたこれまでの主な取組】

##### ①銀河連邦の枠組みと市による取組

・ 宇宙科学研究所の研究施設が縁で交流を始めた5市2町（相模原市・北海道大樹町・秋田県能代市・岩手県大船渡市・宮城県角田市・長野県佐久市・鹿児島県肝付町）による「銀河連邦」の枠組みで、36年間にわたって子どもたちの留学交流をはじめ、スポーツ交流や経済交流などを通じ友好を深めてきた。また、平成24（2012）年には「はやぶさ」が地球に帰還した6月13日を「はやぶさの日」に制定し、以後、毎年、記念イベントを開催してきた。本市では「はやぶさの日」を中心とした期間を「はやぶさWEEK」として、市立博物館やJAXA、JR淵野辺駅周辺の商店などを会場に、宇宙にちなんだイベントを開催している。また、地元の商店会や大学等とも連携して「宇宙フェスタさがみはら」を平成28（2016）年から開催しており、博物館やプラネタリウムを会場にJAXA研究者の講演会や座談会、宇宙にちなんだ料理を販売するグルメブースの出店、プラネタリウムでの宇宙フェスタ特別バージョンの番組投影などを行ってきた。さらに、宇宙にちなんだデザインマンホールを淵野辺駅、JAXA、博物館に設置するなど、宇宙のまち相模原をPRするための取組も実施してきた。令和3（2021）年には、全国初の「さがみはらみんなのシビックプライド条例」を制定し、宇宙とのつながりが深い市の魅力を発信し、シビックプライドを高めるための取組を、市と市民が共に行うことを定めた。

##### ②市立博物館によるJAXA等との連携事業

・ 市立博物館においては、隣接するJAXAと連携し宇宙をテーマにした企画展を毎年開催するとともに、宇宙への興味・関心を育むための講座や講演会、市民協働による星空観望会などを実施しているほか、全国有数の規模を誇るプラネタリウムでは生解説による星空投影や、壮大な宇宙空間を体感できる全天周映画を投影し、宇宙への憧れや好奇心の醸成に取り組んでいる。

・ 平成22（2010）年に「はやぶさ」の帰還カプセルを市立博物館において世界初公開し、2日間で約3万人が来館した。また、令和3（2021）年には「はやぶさ2」の帰還カプセルを世界初公開し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により入館制限中であったが5日間で約4,600人が来館した。

・ 令和4（2023）年度にはJR淵野辺駅周辺の商店会と連携して玩具メーカーとのコラボレーションイベントを博物館プラネタリウムで開催し、ノベルティグッズの配布等を通じて、全国からの誘客を図る取組を実施した。

・ 毎年秋に2日間開催される「JAXA相模原キャンパス特別公開」は、1日で約5千人が来場する最大の宇宙関連イベントとなっており、市立博物館も会場の一部としてプラネタリウムの特別上映やワークショップなどを開催している。

##### ③地元商店会を中心とした取組

・ JR淵野辺駅商店会では、「銀河に一番近い街ふちのべ」を掲げ、宇宙をテーマにした町おこしとして、星座の名前を通りにつけているほか、「宇宙グルメ・グッズ」の開発などに取り組んでいる。また、「大野北銀河祭」や、「はやぶさ2」応援プロジェクトの中で音楽祭やワークショップなどを開催している。

**【目指す将来像】**

本市には宇宙科学技術の最先端研究施設であるJAXA相模原キャンパスが存在し、その隣接地には全国有数規模を誇るプラネタリウムを擁した相模原市立博物館がある。

本市では長年にわたり、これらの個性的な資源を活用し、宇宙への夢とロマンを育むための事業として、「銀河連邦」の枠組みによる交流イベントのほか、市民や地元商店会、大学、民間企業などと連携したコラボレーションイベントなどを開催してきた。また、JAXAと市立博物館が隣接して立地するという強みを活かして、両者が密に連携して様々な事業に取り組んできた。

こうした取組をさらに強化し、「宇宙を身近に感じられるまち」のブランディングによって地域への愛着と誇りを一層持てるまちを実現し、博物館プラネタリウムやJAXAをはじめとする宇宙関連施設と宇宙をテーマにしたイベントを地域資源の基軸として位置付け、市内はもとより、市外からも多くの人を呼び込み、更なる交流を生み出す。さらに、地域にかかわる多様な主体が連携してまちづくりに参画することで、人口減少社会においても活力と賑わいのあるまちを目指す。

**【数値目標】**

K P I ④	事業開始前 (現時点)						K P I 増加分 の累計
	2024年度 増加分 (1年目)	2025年度 増加分 (2年目)	2026年度 増加分 (3年目)	2027年度 増加分 (4年目)	2028年度 増加分 (5年目)		
K P I ①	158.00	0.00	75.00	4.00	2.00	3.00	84.00
K P I ②	29.10	0.00	0.70	0.70	0.70	0.70	2.80
K P I ③	44.40	0.00	4.80	4.80	4.80	4.80	19.20
K P I ④	-0.20	0.00	0.00	0.09	0.09	0.09	0.27

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

#### ○ 地方創生拠点整備タイプ（内閣府）：【A3016】

##### ① 事業主体

2に同じ。

##### ② 事業の名称

世界に誇る博物館プラネタリウムを活用した地域活性化事業

##### ③ 事業の内容

交流人口を拡大し、賑わいのあるまちづくりに寄与する施設とするため、全国有数の規模を誇る博物館プラネタリウムの更なる魅力向上を目的に、全面リニューアルを行う。さらに、その効果を促進するため、プラネタリウム等を活用し、市民、JAXA、観光協会、地元商店会、周辺大学、銀河連邦等と連携して宇宙をテーマとした各種イベントを開催する。

##### 【プラネタリウムの世界最高峰の性能を活かした集客力向上】

プラネタリウム投影機を10億個の星々と8K全天周映像を同時に体験できる世界初の光学式・デジタル式ハイブリッド・プラネタリウムシステムへと改修し、世界最高峰の性能を活かした魅力的なコンテンツを提供する。プラネタリウムの体験価値を格段に高めることにより集客力を向上させ、交流人口の拡大に結び付けるとともに、その効果促進として高性能なプラネタリウムをシティプロモーションの素材として活用することで、全国からの注目を集め、市の認知度や魅力度向上を図る。

##### 【プラネタリウムをより快適に利用していただくための環境整備】

観覧時の快適性を確保するため座席幅を550mm（従来よりも+50mm）に改修するとともに、バリアフリー充実のため介護者が横に座れる車いすスペースを設置する。

また、プラネタリウム利用者のコア層にあたる子育て世代へのサービス向上を図り集客力を高めるため、小さな子どもも利用しやすいように、親子3人で座ることのできる親子席を設置するほか、現在、使用されていないリア映写室・ソフト準備室を多目的スペースに改修し、声の出してしまう子どもと親などがガラス越しに安心して観覧できる空間を整備する。

さらに難聴者や高齢者でもプラネタリウムを楽しめるよう、補聴器・人工内耳で音声を受信できる磁気ループ設備を設置する。これらの環境整備により、これまでプラネタリウムを訪れる機会の無かった方へも間口を広げ、利用者層の拡大につなげる。

##### 【プラネタリウムの多目的利用】

プラネタリウムの多目的利用の自由度を高めるため、持ち込みPCやカメラ映像、ライブ中継入力など様々な入力ソースを自在に投影し世界にも配信可能な映像システムと、コンサート等の利用に適した音響設備、照明などの導入を行う。

これらの設備を活用して市民、JAXA、観光協会、地元商店会、周辺大学、銀河連邦などと連携し、パブリックビューイングやコンサートイベントなど、地域に人を呼び込むイベントを開催し、まちの賑わいを創出するとともに、地域団体の活動の活性化や学生を中心とした若者世代へのプラネタリウムの魅力発信を行う。

また、プラネタリウムを訪れることが少ない50歳以上の世代に向け、需要が高いプラネタリウムコンサートを定期的に開催することで、新たな利用者層の拡大につなげる。

##### 【博物館における宇宙関連イベントの実施】

プラネタリウムの改修期間中に、プラネタリウムの仕組みや歴史が分かる企画展や講座などを開催し、リニューアルオープンに向けた機運を高める。また、リニューアルオープンに合わせて記念企画展を開催し、相乗効果によるプラネタリウム観覧者数の増加を図る。さらにリニューアルオープン後も宇宙をテーマにした企画展や星空観望会などのイベントを継続的に実施し、プラネタリウムの魅力向上とソフト事業との相乗効果を持続させる。

**【JAXAとの連携によるオリジナルコンテンツの制作】**

JAXAに隣接したプラネタリウムという特色を活かし、JAXAの実験装置など普段見学できない場所も含めてJAXA相模原キャンパスの施設・設備の画像・映像リソースをライブラリ化し、JAXAの研究開発現場をプラネタリウム内で紹介できるコンテンツを12タイトル制作する。これらのオリジナルコンテンツを活用することで、競合する他のプラネタリウムとの差別化を図り、集客力を向上させ、交流人口の拡大に結び付ける。

**【JAXAとの連携による宇宙関連イベントの実施】**

JAXA所在地としての強みを活かし、プラネタリウムの多目的活用の一環として、JAXAによる探査機打ち上げのパブリックビューイングを、JAXA職員の解説付きで実施する。また、博物館において実施する企画展で、JAXAが所有する惑星探査機の実物資料や画像、映像などを展示するほか、JAXA職員の協力を得て、宇宙の魅力や最新の研究成果を知るための講演会や体験教室などを開催する。これらの集客イベントを実施することで交流人口の拡大を図るとともに、「宇宙を身近に感じられるまち」としてシティプロモーションに取り組み、市の魅力度向上につなげる。

**【天文学や宇宙工学等の質の高い学習機会の提供】**

投影機やドームスクリーンの更新により、精密かつ正確な星空の投影が可能となることから、本物の夜空に等しく天文現象を学ぶことができる施設として活用する。また、特にデジタル式映像投影機では、様々な波長の電磁波をシミュレートし宇宙を可視化することで、人の目では直接見ることのできない宇宙の姿を再現することが可能であり、JAXAから提供を受けた素材と組み合わせ、宇宙史の解明につながるような深掘りしたコンテンツを提供することで、天文学の普及に寄与する。また、「はやぶさ」、「はやぶさ2」に加え、これから打ち上げられるJAXA相模原キャンパスで開発された惑星探査機等のミッションを、プラネタリウム番組を通じて紹介することで、宇宙工学など宇宙開発に関わる学問分野の普及にも寄与する。

**【回遊エリアの形成】**

JAXAの宇宙科学探査交流棟にある博物館紹介コーナーを充実させ、JAXA・博物館間の回遊動線の強化を図るとともに、利用者の多い近隣の淵野辺公園やJR淵野辺駅周辺商業地とも連携して回遊エリアを拡充し、デジタルスタンプラリーなど域内の回遊性を高めるイベントを実施する。これらの実施により、「宇宙を身近に感じられる」エリアを創出し、交流人口の拡大を図るとともに、相乗効果によりまちに賑わいをもたらす。

#### ④ 事業が先導的であると認められる理由

##### 【自立性】

###### 【プラネタリウム運営の収支状況】

事業収入はプラネタリウム観覧料のみであり、令和4（2022）年度の事業収入は12,839千円で、事業経費（プラネタリウム操作委託）及び維持管理費（保守点検、プロジェクター賃借料）37,615千円に対し、約34%であり、自立性が高いとは言えない状況である。

###### 【事業実施による観覧者増への取組】

プラネタリウムのリニューアル効果による観覧者の増加を、新型コロナウイルスによる影響を受けていない平成28（2016）～令和元（2019）年度の平均観覧者数に対して、供用開始年により約10%増を見込むが、さらに観覧料収入の増加を図るため次の取組を行う。

- ・ 毎年プラネタリウム観覧者数の前年度比1%増を達成するため、JAXAの惑星探査計画等の最新情報を活かした知的好奇心を刺激する番組、四季折々の星空を解説する番組、コア層である子育て世代が楽しめる動物やアニメキャラクターが登場する全天周映画など、コンテンツの充実化を図るとともに、JAXA等と連携して相乗効果のあるワークショップや講演会などのソフト事業を実施する。

- ・ 平日2回、土日祝日4回となっている投影回数を、観覧者の多い土日祝日のみ5回とする。
- ・ 月2回程度プラネタリウムコンサート等多目的利用を含めた通常投影以外の事業を開催する。

5回投影とすることで、土日祝日の観覧者数をもとに試算すると年間で約12.3%の観覧者増が見込まれる。また、満席率50%としてプラネタリウムコンサート等の観覧者数は年間2,400人と見込まれる。リニューアル効果やこれらの取組により、施設の供用開始2年目で、年間観覧者数約72,000人（15,000人増）を実現する。

###### 【維持管理コストの削減】

プラネタリウムのリニューアルによって、最新式の光学式・デジタル式ハイブリッド投影機が導入され、保守点検経費が約2,000千円増加するが、これまで光学式とは別に維持管理していたデジタル式投影機が不要となるため、投影機については、差引で年間約3,000千円の維持管理コストの削減となる。

###### 【リニューアル後の収支見込】

施設の供用開始年度については、プラネタリウムのリニューアル工事のため、9ヶ月分の観覧者数約60,000人に14,838千円の観覧料収入が見込まれ、維持管理費33,211千円に対し、約45%が充当される見込みである。

年間を通じての稼働となる2年目については、観覧者数約72,000人、18,080千円の観覧料収入で、維持管理経費36,123千円に対し、約50%が充当される見込みである。このようにプラネタリウムのリニューアルと観覧者増への取組により、施設整備前よりも充当率を約16ポイント増加させることができ、自立性を高め事業を継続することができる。

なお、維持管理コストは人経費の増を主な要因として微増していくことが予測されるが、毎年1%観覧者の増加等を実現することで、増加分を賄うことが可能である。

## 【官民協働】

### 【企業版ふるさと納税】

令和6（2024）年度に企業版ふるさと納税の募集を開始し、博物館プラネタリウムによる町おこしに共感していただいた企業からの寄附を目標額1,000万円として募る予定で、プラネタリウム改修の事業経費に充当する予定である。また、改修後のプラネタリウムを地域活性化に活用することにより、継続的な寄附も期待されることから、維持管理費の負担軽減を図るため改修後も定期的に取り組む予定である。

### 【JAXAとの協働】

JAXAと相模原市は長年にわたる連携の歴史があり、令和元（2019）年には「相模原市とJAXA連携に関する協定」を締結し、連携の更なる強化に努めている。本事業では効果促進事業として以下の取組等を実施し、JAXA所在地としての強みを活かした誘客による交流人口の拡大やまちの賑わい創出につなげる。

- ・実験装置などふだん見学できない場所も含めてJAXA相模原キャンパスの施設・設備の画像・映像リソースをライブラリ化し、JAXAの研究開発現場をプラネタリウム内で紹介できるコンテンツを12タイトル制作する。
- ・プラネタリウムの多目的活用の一環として、JAXAによる探査機打ち上げのパブリックビューイングを、JAXA職員の解説付きで実施する。
- ・博物館において実施する企画展で、JAXAが所有する惑星探査機の実物資料や画像、映像などを展示するほか、JAXA職員の協力を得て、宇宙の魅力や最新の研究成果を知るための講演会や体験教室などを開催する。
- ・JAXAの宇宙科学探査交流棟にある博物館紹介コーナーの充実を図り、JAXA・博物館間の回遊性を高める。

### 【学校教育等との連携】

これまで本市では、子どもたちの宇宙への興味・関心を醸成するため、市内全ての市立小学校4年生を対象に、プラネタリウムでの学習投影を行ってきた。この取組は学習効果だけではなく、プラネタリウムの市民の認知度を高め、リピーターの獲得にも寄与している。引き続きこの取組を継続するとともに、市内小学校等71校の校庭から見た風景をプラネタリウム内に装填し、市内の子どもたちがより親しみをもちて宇宙を学べる環境を整備する。また、プラネタリウム内の映像配信機能等を活かして学校現場における宇宙教育の支援を行う。

さらに、市外からの修学旅行・社会科見学等のニーズに応えるため、JAXA見学とプラネタリウム観覧をパッケージ化した利用プランの提案や、複数学年に渡る学習投影用番組の制作・投影などを行う。

近隣大学との連携としては、桜美林大学や麻布大学などと連携して、学生によるコンサート等を開催し、プラネタリウムの利用率が低い若者世代の宇宙やプラネタリウムへの関心を高める。

### 【民間福祉事業所等との連携】

民間福祉事業所などと連携し、聴覚障害者向けの字幕付投影を行う。また、アウトリーチ事業として移動式プラネタリウムを活用した星空解説などを行うことで、高齢者や障害のある人などにも、美しい星空に親しみ、宇宙への興味・関心を高めてもらう機会を提供し、共に学び生きる社会の実現に寄与する。

### 【淵野辺駅・淵野辺公園周辺施設の回遊エリアの活性化】

相模原市は令和4（2022）年に淵野辺公園周辺にあるJAXA、独立行政法人国立美術館、独立行政法人国民生活センターと文化事業等の協力協定を締結し、博物館を中核として、地域活性化やシビックプライドの形成を目的に連携事業に取り組んでいる。また、相模原市、JR淵野辺駅周辺の「にこにこ星ふちのべ商店会」や桜美林大学、読売新聞東京本社で構成される宇宙フェスタさがみはら実行委員会が主催の「宇宙フェスタさがみはら」を平成28（2016）年から開催しており、博物館やプラネタリウムを会場にJAXA研究者の講演会や座談会、宇宙にちなんだ料理を販売するグルメブースの出店、プラネタリウムでの宇宙フェスタ特別バージョンの番組投影などを行ってきた。さらに、宇宙にちなんだデザインマンホールを淵野辺駅、JAXA、博物館に設置するなど、回遊性を高めるための取組も実施してきた。本事業においてはこうした枠組みや取組を活かし、さらに効果的なものとするため、各スポットを楽しく訪れていただけるよう、スマートフォンのGPS機能を利用したデジタルスタンプラリーや、スポット利用者へのノベルティグッズの配布などを行い、回遊エリアの活性化を図る。

#### 【民間企業とのコラボレーションイベントの実施】

民間企業とのコラボレーションイベントとして令和4（2022）年に、博物館と淵野辺駅周辺の商店が連携して、プラネタリウム観覧者と商店利用者に、人気スマホゲームの限定キャラクターカードの配布を行った。アンケート結果によると、「また来たいと思う」と答えた方が81%で、「楽しみにしていたこと」としてプラネタリウムを挙げた方が32%と2番目に多かった。北海道から沖縄まで全国各地からの来訪者があり、地域への経済的効果に加え、市やプラネタリウムの認知度を上げるために効果的な取組であった。こうした成功例に基づき、世界最高峰の性能を誇るプラネタリウムへリニューアルすることに合わせ、日本が誇る人気アニメやゲームとの宇宙にちなんだコラボレーションイベントを開催し、全国からの誘客に加え、インバウンド需要の取り込みによって地域経済の活性化を図る。

#### 【地域間連携】

##### 【近隣市町村との連携】

本市では近隣市町村との連携による観光振興として、市域北西部の八王子市、あきる野市、大月市、都留市及び本市の5市で連携し、各市が持つ特色のある歴史や文化など魅力的な地域資源を生かし、新たな魅力の創造と誘客に向けた取組を進めている。中でも年間登山者数が世界一とも言われ、外国人観光客も多い八王子市の高尾山から本市の陣馬山に続くハイキングコースは星空の美しさも大きな魅力となっている。また、八王子市には、年間約58,000人が訪れるプラネタリウムである「コニカミノルタサイエンスドーム」がある。

一方、市域南部では、地域連携型DMOである公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団を中心に、県、厚木市、愛川町、清川村、地元企業や団体等多様な関係者と連携し、宮ヶ瀬湖周辺地域の魅力を向上させる観光地域づくりを進めているが、宮ヶ瀬湖も星空観察のスポットとして知られ、清川村の湖畔エリアには天体ドームも設置されている。また、厚木市には年間約30,000人が訪れる「厚木市子ども科学館」のプラネタリウムがある。

これら市域北西部と南部にある本物の星空の美しさを自然の中で体感できる観光スポットと、宇宙の魅力を様々な演出によって楽しみながら学べるプラネタリウムを組み合わせ、関係自治体等が連携して、星空観望などの野外イベントやプラネタリウムを活用した相互PRなどに取り組むことにより、宇宙でつながる広域の観光エリアが新たに創出され、スケールメリットを活かした相乗的な誘客効果をそれぞれの自治体で得ることができる。

##### 【銀河連邦の枠組みを活用した取組等】

JAXAの研究施設が縁で交流を始めた5市2町（相模原市・北海道大樹町・秋田県能代市・岩手県大船渡市・宮城県角田市・長野県佐久市・鹿児島県肝付町）による「銀河連邦」の枠組みにより各種事業を実施する。具体的には、子ども留学交流事業のほか、PR物産展、銀河連邦各共和国関係者が一堂に介し、友好親善の輪を広げるとともに、「宇宙」をテーマとしたイベントを実施する「銀河連邦フォーラム」を開催する。さらに、魅力発信事業として、ご当地ヒーローである「銀河連邦ヒーロー」を各種事業に登場させる。

子ども留学事業については、例年8月の3日間で開催しているイベントで、銀河連邦各共和国の小学5年生を対象に宇宙科学啓発や体験学習等を実施し、交流の輪を広げる場としている。2024（令和6）年度は本市が会場となっており、JAXAの見学やプラネタリウム観覧などが検討されている。これらの事業実施にあたって、プラネタリウム内の様子を撮影できるデジタル式投影機内の高感度カメラやライブ配信機能を活用し、世界最高峰の性能を誇るプラネタリウムや相模原市の魅力紹介などを行うことで、相模原市に対する好意的認知度を高め、広域からの誘客につなげる。

銀河連邦の枠組みに加え、全国各地の自治体等の協力を得て、ロケットの発射や地域限定で見られる皆既日食、流星群等のライブ中継をプラネタリウムで行うほか、おすすめの星空スポットの紹介などを行い、観覧者の宇宙や星空への興味を喚起し、各地を訪れるきっかけを作る。そして、実際の星空に触れ関心を高めた観覧者が、再びプラネタリウムを訪れる好循環を生み出す。さらに、取組を通じて、各自治体と相互PRを行い、相互の認知度向上、観光誘客につなげる。

## 【政策・施策間連携】

### 【少子化対策への寄与】

相模原市総合計画推進プログラムにおいては、分野横断的に取り組む重点テーマに基づく取組として少子化対策をあげており、子どもの居場所づくりの推進や子育て世帯の経済的負担の軽減のため、子どもが公共施設を使用する場合の施設使用料等を令和5（2023）年10月より無料とした。博物館プラネタリウムも無料化対象施設であり、宇宙をテーマとした事業を、シティプロモーションに加え、地域活性化、教育、少子化対策につなげ連携して一体的な取組とするとしている。

本事業においては、プラネタリウムのリニューアルにより、新たに親子席の設置や小さな子どものための嵩上げシートを導入するとともに、乳幼児など声が出てしまう方にも安心して観覧していただけるよう既存のリア映写室を改修して、多目的ルームとして整備する。これらの取組によって、本市には子どもを産み育てやすい環境が整備されていることを多くの方々に実感していただき、本市の将来のまちづくりを担う世代の増加を図る。

### 【教育への寄与】

宇宙産業は将来の成長産業として注目されており、将来を担う子供たちが、今後、宇宙と接し関りを持つ機会がますます増えていくことが予想される。本市では、JAXAや博物館プラネタリウム、宿泊体験施設に併設された天文台など、豊かな宇宙関連資源を活用するとともに、小中学校教員のJAXAとの人事交流などを通じて、宇宙を素材とした特徴ある教育を推進し、環境、技術、文化など幅広い分野の学びを子どもたちに提供している。その中核となる博物館では、市内の全小学生を対象にプラネタリウムでの学習投影を行っており、宇宙への興味・関心を高め、さらに深く学びたいと思う子どもたちの支援を行ってきた。

プラネタリウムのリニューアルは、身近に宇宙を感じながら質の高い学びが得られる環境をより充実させるものであり、例えば、市内全小学校の風景をプラネタリウム投影機に装填することで、星空と同時に投影することが可能となり、見慣れた風景から太陽や星の動きを理解し易くなるなどの効果を得ることができる。また、学習指導要領に則したプログラムを世界最高峰の性能を誇る投影機で3次元データを含め多彩でリアルな映像表現により映し出すことで、宇宙への理解をこれまで以上に深めることができるようになる。

さらに、プラネタリウムの多目的利用によって、生物、化学、物理、数学、アートといったSTEAM教育など幅広い分野での利用促進が図られ、子どもたちの未来を切り拓く力の育成に大きく寄与することができる。また、JAXAとの連携による講演会や研究発表会を実施することで、JAXA研究者と直接会える貴重な機会を提供することが可能となり、高等教育課程にある理系人材の育成にも大きく寄与することができる。

### 【共生社会の実現の寄与】

本市では共に支え合い、いきいきと暮らせる社会を目指し、高齢者や障害者の社会参加への取組や地域生活への支援に向けた環境づくりなどを進めている。本事業によるプラネタリウムの改修では、車イスでの観覧がより便利になる空間を設けるほか、声が出てしまう利用者でも安心して観覧できる多目的室の整備や、難聴者や高齢者の聴こえを支援するための難聴者用磁気ループを整備する。これらの環境整備により、本事業は障害者等による文化芸術活動の推進や社会参加に寄与することができる。また、民間福祉事業所などと連携し、アウトリーチ事業として移動式プラネタリウムを活用した星空解説などを行うことで、高齢者や障害のある人などにも、美しい星空に親しみ、宇宙への興味・関心を高めてもらう機会を提供することができる。

### 【観光振興への寄与】

2022（令和4）年に、博物館プラネタリウムと淵野辺駅周辺の商店が連携して、人気スマホゲームの限定キャラクターカードの配布を行った結果、北海道から沖縄まで全国各地からの来訪者があり、地域への経済的効果に加え、市やプラネタリウムの認知度を上げることに成功した。プラネタリウムを「宇宙を身近に感じられるまちさがみはら」の中核的観光資源として位置付け、改修によってその魅力を向上するとともに、JAXAや周辺の観光・商業施設との連携に加え、引き続きゲームやアニメなどのキラーコンテンツを保有する民間企業等との連携を行う。これらの取組により、全国からの来訪者増加に加え、インバウンド需要の取り込みも見込まれ、観光消費額及び入込観光客数の拡大など観光振興に寄与することができる。

### 【生涯学習への寄与】

市立博物館内にあるプラネタリウムとして、学習効果を高めるための改修を行い、さらにJAXA等と連携することで、宇宙に関する多様で質の高い学習機会を提供する。また、企画展示や、講演、講座、体験学習、星空観望会などプラネタリウムでの学習効果を促進する事業に取り組むとともに、公開での学習発表会など、学んだ成果を生かすことのできる場を提供する。

### 【地域交流による地域活力の維持・向上への寄与】

本市中央区では、学術・文化の中央地区としての地域活性化を図りまちづくりに貢献することを目的に、自治会連合会や青少年育成協議会が中心となった「中央地区宇宙教室実行委員会」が活動しており、「子どもと大人共に学ぶ宇宙教室」を博物館やJAXAと連携して開催している。このように地域コミュニティの交流の活動拠点として既に博物館やプラネタリウムが利用されている実績があり、こうした機能を今後更に拡充するために、プラネタリウムの改修によって多目的利用の自由度を高め、市民活動団体の研修事業での利用のほか、子育てや防災など各種セミナーの会場、文化芸術活動の発表の場などとして活用し、地域コミュニティの活性化に寄与する。

### 【デジタル社会の形成への寄与】

#### 内容①

全天候デジタル式映像投影機器

#### 理由①

本事業によって導入する最新式の全天候デジタル式投影機は、テキストや図画、3Dモデルなどを光学式プラネタリウムと連動しながら映写することができ、天体の動きがより理解しやすくなるだけでなく、生物、化学、物理、数学、アートなど、SDGsやSTEAM教育への応用も可能である。デジタルのメリットを活かし、様々なニーズに対応することで子どもたちへの高い学習効果が期待される。

また、8Kの高精細な映像と豊富な3Dモデルデータにより、地表面から太陽系を巡り宇宙大規模構造までシームレスに描画可能で、3Dモデルデータはインターネット回線により、世界中の研究機関やプラネタリウム施設から取得可能である。さらに、持ち込みPCやカメラ映像、ライブ中継入力など様々な入力ソースを自在に投影し、その映像をインターネット回線を通じて世界中に配信することも可能である。

プラネタリウムの改修によって、デジタルデータを取り扱う自由度を高め、これまでにはない映像体験を提供するとともに、インターネットと連携し世界中とつながることによって、宇宙にゆかりのある相模原市について興味を持っていなかった方にも、その魅力を知っていただくことが可能となり、シビックプライドの向上や交流人口の拡大に寄与することができる。

#### 内容②

該当なし。

#### 理由②

#### 内容③

該当なし。

#### 理由③

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 9 月

【検証方法】

総合戦略に示した、基本目標ごとの数値目標や各事業の重要事業評価指標（KPI）などを基に、実施した施策・事業の効果をPDCAサイクルにより検証する。その検証の妥当性・客観性を担保するため、「相模原市総合計画審議会」からの意見を踏まえ、施策・事業の評価・改善を行う。

【外部組織の参画者】

相模原市総合計画審議会には、公募の市民を始め、大学などの教育機関、非営利活動法人から参画している。

【構成員】

明治大学教授、東京都立大学准教授、田園調布学園大学教授、東京都市大学教授、明治大学専門職大学院教授、認定NPO法人キーパーソン21代表理事、公募委員

【検証結果の公表の方法】

上記審議会は、原則公開となっており、一般傍聴が可能であり、会議結果についても市ホームページで公開している。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3016】

総事業費 485,600 千円

⑧ 事業実施期間

2024年4月1日から

2029 年 3 月 31 日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

#### (1) 宇宙関連事業の推進

##### ア 事業概要

JAXA、市民、観光協会、地元商店会、周辺大学、その他民間企業などと連携して、市への誘客につながる宇宙をテーマとしたイベントを開催する。また、JAXAの研究施設と縁のある5市2町で組織される「銀河連邦」の枠組みを活用し、交流イベントなどを通じてシティプロモーションを行い、広域連携による相乗効果を高める。

さらに、博物館において、JAXAと連携して、宇宙をテーマとする企画展や各種講座、星空観望会、JAXA研究者等による講演会、天体望遠鏡作りなどの体験学習のほか、七夕にちなんだイベントなどを開催し、宇宙への興味・関心を一層育む。

##### イ 事業実施主体

相模原市

##### ウ 事業実施期間

2023年4月1日から2029年3月31日まで

#### (2) サイクルツーリズムの推進

##### ア 事業概要

首都圏から程良い距離にあり、豊かな自然をはじめ、東京2020オリンピック自転車ロードレース競技のコースにも選ばれた山間コースが楽しめることから、緑区を中心に多くのサイクリストが本市に訪れている。

本市では、さがプロ2020推進本部会議において、オリンピックレガシーとしてサイクルツーリズムを推進していくことを決定しており、第3次相模原市観光振興計画、相模原市自転車活用推進計画、相模原市スポーツ推進計画においても事業を推進していくことを位置付けている。

令和4年(2022)年度には、本市のサイクルツーリズム推進の指針となる『相模原市サイクルツーリズム推進プラン』が策定されており、令和5年度以降は本プランに基づき、サイクルステーションの整備や情報発信といった様々な事業を実施する。

##### イ 事業実施主体

相模原市

##### ウ 事業実施期間

2023年4月1日から2029年3月31日まで

#### (3) シビックプライド向上事業

##### ア 事業概要

人口減少や少子高齢化社会を迎えるにあたり、市民のシビックプライドを醸成することは、定住人口の確保のほか、市民のまちづくりへの参画意識が高まり、協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの活性化につながる。このため、本市では、全国の自治体で初となる「さがみはらみんなのシビックプライド条例」を制定し、令和3年4月1日に施行し、同条例に基づくシビックプライドを高める取組を効果的かつ計画的に推進するため、「さがみはらみんなのシビックプライド向上計画」を令和4年度に策定した。本計画に基づき、多様な主体との連携を図りつつ、市ホームページ・各種SNSによる市の魅力発信、メディアリレーションの強化、ターゲットエリアや年代層に応じ媒体を選択した広告、ファンサイトの見直し、魅力的なイベントの開催、広報紙・各種PR冊子の効果的な活用に取り組む。

##### イ 事業実施主体

相模原市

## ウ 事業実施期間

2023 年 4 月 1 日から 2029 年 3 月 31 日 まで

### 6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2029 年 3 月 31 日 まで

### 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

#### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

#### 7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に  
7-1に掲げる評価の手法により行う。

#### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。